

会場のご案内



消化器疾患の患者さまの笑顔。  
そんな、いい絵を描きたい。

消化器疾患で苦しむ人たちの  
幸せに生きたい。自分らしくありたい。  
その思いにしっかり応える私たちでありたい。  
EAファーマは、  
そんな未来の実現に向けて進んでいきます。



EAファーマは、消化器のスペシャリティ・ファーマです。

EAファーマは、エーザイグループの消化器事業と  
味の素グループの消化器事業を統合・設立した製薬会社です。

EAファーマ株式会社  
東京都中央区入船二丁目1番1号  
<http://www.eapharma.co.jp/>



「第18回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ  
肝胆膵の部 症例募集のお知らせ

肝胆膵の部 [3セッション]

8:50~10:40

主題1 肝：「良悪性の診断に苦慮した肝結節性病変」

司会者：熊田 卓先生(大垣市民病院 消化器内科)  
佐野 圭二先生(帝京大学医学部 外科学講座)

病理コメント：中島 収先生(久留米大学病院 臨床検査部)

画像コメント：吉満 研吾先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)

基調講演：角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学教室)

10:50~12:40

主題2 胆：「先天性胆道拡張症の診断と治療」

司会者：花田 敬士先生(尾道総合病院 消化器内科)  
海野 倫明先生(東北大学大学院 消化器外科学)

病理コメント：全 陽先生(神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理診断学分野)

画像コメント：廣橋 伸治先生(大阪明眼病院 放射線科)

基調講演：糸井 隆夫先生(東京医科大学 消化器内科学分野)

13:55~15:45

主題3 膵：「IPMN併存膵癌」

司会者：入澤 篤志先生(福島県立医科大学 会津医療センター 消化器内科学講座)  
清水 泰博先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)

病理コメント：福嶋 敬宜先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)

画像コメント：蒲田 敏文先生(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 放射線科学)

基調講演：真口 宏介先生(手稲溪仁会病院 消化器病センター)

消化管の部 [4セッション]

8:50~10:20

「炎症性腸疾患」

10:30~12:00

「消化管癌(形態学):上部消化管」

12:10~13:00

「機能」

14:15~15:45

「消化管癌(形態学):下部消化管」

※今回の「消化管の部」の演題は、全て指定演題の予定です。

※上記時間配分は予定となります。

2017年7月29日(土) 8:45~16:00(予定)

ベルサール高田馬場 B2F「ホールA+B」  
ホールA「消化管の部」、ホールB「肝胆膵の部」

〒169-0072 東京都新宿区大久保3-8-2 住友不動産新宿ガーデンタワー TEL 03-3208-0880(代表)

参加資格 オープン

会場費 3,000円

共催：臨床消化器病研究会

〈事務局〉「消化管の部」岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野

「肝胆膵の部」手稲溪仁会病院 消化器病センター

EAファーマ株式会社 担当：芦田 大輔／古屋 浩

臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>

## 第18回臨床消化器病研究会 「肝胆膵の部・演題募集」について

肝胆膵の部では、各主題で検討する症例を公募いたします。

### 肝胆膵の部 主題症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込表」・「画像・病理データ」をCDに保存の上、事務局宛にお送りください。

※「症例申込表」は、臨床消化器病研究会ホームページ(<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>)より入手できます。

**締め切り: 2017年5月19日(金)**

送付先: 臨床消化器病研究会(肝胆膵)事務局  
手稲溪仁会病院 消化器病センター 花田 美帆 宛  
〒006-8555 北海道札幌市手稲区前田1条12丁目1-40  
TEL: 011-681-8111(内2050) FAX: 011-685-2967  
e-mail: tkgc@tb3.so-net.ne.jp

※本研究会では、各セッションの様態をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

### 注意事項

#### 1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込表」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 応募する「領域」「主題」
- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込表とともに送っていただく資料の種類、枚数(資料別)

#### 2)「画像・病理データ」

※パワーポイントで作成し、以下の画像・病理データをご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マク口)
- 病理組織所見(ミク口)
- その他、症例検討に必要な資料

※病理標本現物(プレパラート)は、送付しないでください。

3)「症例申込表」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、ご提出願います。

## 主題 1 肝: 「良悪性の診断に苦慮した肝結節性病変」

司会者: 熊田 卓先生(大垣市民病院 消化器内科)  
佐野 圭二先生(帝京大学医学部 外科学講座)

病理コメンター: 中島 収先生(久留米大学病院 臨床検査部)  
画像コメンター: 吉満 研吾先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)

基調講演: 角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学教室)

肝結節性病変に関しては、現在までに画像診断の流れも概ね確立され、治療法もその診断に従って適切に選択されるようになった。しかし今なお良悪性の診断に苦慮し、治療法選択に迷う肝結節に遭遇することが少なくない。その背景のひとつとして、ウイルス性肝炎の罹患率低下やC型肝炎ウイルス治療の飛躍的進歩により、日常遭遇する肝結節において「ウイルス性肝炎に発症した肝結節≒原発性肝癌」という典型例が減少したことが挙げられる。今回、良悪性の診断に苦慮した肝結節性病変をご提示いただき、Gd-EOB-DTPA造影MRIなどの画像所見と、その病理像を供覧することにより、最終診断の是非を討議し、その最終診断にいたるための画像・病理像のポイントを整理したい。画像と病理の対比が可能な症例であれば肝生検症例、切除症例を問わず、多くの演題をご応募いただきたい。

## 主題 2 胆: 「先天性胆道拡張症の診断と治療」

司会者: 花田 敬士先生(尾道総合病院 消化器内科)  
海野 倫明先生(東北大学大学院 消化器外科学)

病理コメンター: 全 陽先生(神戸大学大学院医学研究科 病理学講座 病理診断学分野)  
画像コメンター: 廣橋 伸治先生(大阪暁明館病院 放射線科)

基調講演: 糸井 隆夫先生(東京医科大学 消化器内科学分野)

先天性胆道拡張症は、2015年に診断基準が作成され、狭義では総胆管を含む肝外胆管が限局的に拡張する先天性の形成異常で、膵・胆管合流異常を合併するものをいう。ただし、肝内胆管の拡張を伴う例もある。と定義された。診断で重要な所見は、年齢を考慮した胆管径、拡張部位、拡張形態であり、US、MRCP、CT、ERCPなどが用いられているが、各種画像診断の結果、本症と診断するかどうか難渋する場合がある。画像と病理が正確に対比可能な症例検討を通じて、診断過程での問題点、および胆道癌を併存した場合の治療方針、術後の肝内結石の診断と治療、術後フォローアップをどうするか、などに関する討論を行いたい。

## 主題 3 膵: 「IPMN併存膵癌」

司会者: 入澤 篤志先生(福島県立医科大学 会津医療センター 消化器内科学講座)  
清水 泰博先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)

病理コメンター: 福嶋 敬宜先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)  
画像コメンター: 蒲田 敏文先生(金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 放射線科学)

基調講演: 真口 宏介先生(手稲溪仁会病院 消化器病センター)

画像診断の進歩と疾患概念の普及によりIPMNと診断される症例が増加し、悪性度診断に基づき経過観察や手術の治療方針が決定されている。IPMNでは病変とは離れた場所に浸潤性膵管癌が同時性、異時性に発生することが報告されるようになりIPMN併存膵癌と定義された。IPMN経過観察例における膵癌発生は、3年で4%、5年で約9%と高い頻度であることが本邦から報告されている。IPMN併存膵癌は患者の生命予後を直接左右する疾患であるが、その頻度や臨床病理学的な特徴はいまだ不明な点も多く、診断に苦慮する症例も少なくない。

今回はIPMN初回診断時、経過観察中もしくはIPMN切除後に診断されたIPMN併存膵癌の症例を提示して頂き、併存膵癌の特徴を明らかにし、IPMN診療の際の留意点を論じたい。論点を明確にするためにIPMN由来浸潤癌は除外する。多くの施設から多数の応募を期待する。